

(様式第4号)

上田市上下水道審議会 会議概要

1 審議会名	平成28年度(第5期)第7回上田市上下水道審議会
2 日時	平成29年1月25日 午後2時から午後4時まで
3 会場	南部終末処理場2階会議室
4 出席者	久保山会長、田中副会長、伊藤委員、金井委員、古平委員、鷹野委員、高橋委員、土屋委員、長尾委員、本間委員、宮岸委員、山本委員、米津委員、若林委員
5 市側出席者	宮澤上下水道局長、城下経営管理課長、滝澤サービス課長、内川上水道課長、松井下水道課長、上原浄水管理センター所長、藤極丸子・武石上下水道課長、 (以下経営管理課)白鳥課長補佐兼経理担当係長、町田経理担当係長、青井庶務係長、庶務係清水
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成29年2月2日

協 議 事 項 等

1 開会

2 会長あいさつ

- ・ 昨年の12月16日に「上田市上下水道事業経営戦略(案)」についての内容説明があり、本日前回に続き内容説明と委員の皆様からいただいた質問・意見についての回答がありますので、引き続き理解を深めるとともに、慎重な審議をお願いしたい。
- ・ 経営戦略の審議については次回2月15日の審議会で終了としたいのでよろしくお願いしたい。

3 議事

(1) 「上田市上下水道事業経営戦略(案)」について

○事務局より前回審議会資料1、資料2に基づき説明

- ・ 委員からの意見・質問なし

(2) これまでの意見・質問への回答について

○事務局より資料1に基づき説明

- ・ 委員からの意見・質問なし

(3) 資料の修正について

○事務局より資料2に基づき説明

- ・ 委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 目標値の時期について、平成30年度と平成38年度と設定されているが、平成30年度までに何をやりたいとか、平成38年度までに何をやりたいといった考え方が記載されているのか。

(事務局) 現状(直近決算値)とは平成27年度であるが、最終の目標値として10年後の計画を立てることなので、経営戦略の最終年度だけ記載して38年度ここまでもっていきたいという形でもよかったが、途中で30年度を設けたのは、「水道ビジョン」と「下水道ビジョン」といった他に策定された計画があり、この計画が21年度から30年度までの計画となっているため30年度は目途となっている。この「水道ビジョン」と「下水道ビジョン」を基にしながらかこの経営戦略を作っているの、基本的

にはそれに則って 30 年度まで進めていく。さらに今度新しいビジョンをそれぞれ作る際には見直しをかけて 38 年度もしくは 39、40 年度までの見直しをかけていきたいと考えている。

(委員) できれば 38 年度こういった夢を描きたいというものがあってもよいのではないかと。市の長期計画等にも触れさせてもらったが、38 年度こういう風によくなりますとそういうものが触れてあると一般の市民の方にもわかり易いのではないかと。

(事務局) 文章として記載するということですか。

(委員) 数値は出ているが、市の上下水道局はここが押しですと、10 年後にはこうなりますよと文章で記載した方が一般の市民の方もわかり易いのではないかと。

(事務局) どんな形でできるのか検討させてください。

(会長) これについて委員の皆さんはどう考えますか。全体的には 30 年度までを一区切りとして、さらに 38 年度ということになるが、そこまでの夢を語れるだけのものがあるのか、それを書いてしまっとうなのかと考えるが。

(事務局) 夢を載せるというのなかなか難しい。本文の中でもどんな形で 38 年度に向けてやっていきますという部分は記載しているのでご覧いただきたいと思うが、この後、目標値の設定の仕方、どんな考えでやっているか説明しますのでお聞きいただきたい。

(会長) ひとつの方向性を出せるよう協議をお願いします。

#### (4) 前回審議会の意見・質問への補足説明

##### ○事務局より資料 3、資料 4 に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 資料 3 の例えば水道事業の場合、収益的収支のグラフで収益と費用が同じ高さになっているが、同じと考えてよいか。同じく資本的収支についても同様か。また、過年度資金の数値 23 億 3,100 万が収入不足額 11 億 8,300 万に減っているが、この 23 億 3,100 万がどのようにして 11 億 8,300 万になるのか。また、過年度資金 23 億 3,100 万の下が空欄になっているがどのようなものか。

(事務局) 収益的収支のグラフの高さについては、実際の費用は純利益の 5 億 5,400 万の部分がなく、従って収益の方が多し。収益と費用の差が 5 億 5,400 万という形になるので、この部分が利益となり結果として高さが同じということになる。過年度資金 23 億 3,100 万が 11 億 8,300 万に減っているということだが、過年度資金 23 億 3,100 万と当年度に発生した分 12 億ほどの部分の合算したものの 35 億程になるが、それがその年の資本的収支の不足分である 11 億 8,300 万に充てられる。そうすると 35 億から 11 億 8,300 万引くと 23 億程は翌年度に過年度分の留保資金として引き継がれる。

(委員) グラフに 23 億 3,100 万を出す意味がわからない。トータルして 35 億から 11 億 8,300 万引く形の中では 23 億 3,100 万は何なのか。その下の空欄には数字は入らないのか。(過年度の残金が) 35 億だとすると空欄は 12 億になると思われるがどういうことか。

(事務局) 過年度資金 23 億 3,100 万から先ず不足額の 11 億 8,300 万を補てんして、その後本年度出た 12 億が足されるという順番になっている。

(委員) 23 億 3,100 万から集中的に 11 億 8,300 万持っていくという考えか。

(事務局) そのとおりです。23 億 3,100 万が 11 億 8,300 万になるという意味ではありません。

(委員) 資料 4 の説明の中で、浄水場、配水池の耐震化率について、耐震診断を 29、30 年度に行うということだが、耐震化率は耐震診断をして工事の手当てを付けないといけなくてやらずとも良いところが出てくると思うが、もし工事を行わなくても良いということになれば、その際には耐震化率が跳ね上がると考えるがそのあたりはどうなるのか。また、これから公共下水道のほうに農業集落排水事業を統合化していくということで年々動いていくが、その辺はどのように見込まれているのか。

(事務局) 浄水施設、配水池の関係について平成 29、30 年度で主だった施設において耐震診断を実施します。その中で耐震化が確認できたものについては OK というものも出てくる。浄水施設については施設が全て古いため、そのまま耐震診断で OK というものはないと想定している。配水池の方は、PC 製の円筒形の配水池、以前の古いものについては RC 製四角い配水池の主に 2 種類の物がある。比較的新しく造

られた PC 製の配水池については、今までの経験からたぶん耐震診断をすれば OK となるだろうという想定のもとに 29、30 年度で耐震診断を実施するので、工事はないが平成 27 年度の 31.4%から平成 30 年度 41.5%に耐震化率が上がるということになる。

(事務局) 農業集落排水の公共への統合をどのように捉えるかということですが、人口については(前回資料 2 の) 28 ページにあるように平成 31 年度から公共下水道に統合していく形で算定している。従って、収益等についてもそれに則った形で算定している。経費についても同じである。また、50 ページで効率化への取組みについて 3 最適化に関する事項(1) 最適化で 31 年度から 38 年度までそれぞれ処理場藤原田から始まり保野舞田までこういう計画で統合していく予定になっている。この辺の収支も見込んで計算をしているので、過不足はないようになっている。

#### (5) 審議

・委員からの意見・質問なし

#### 4 その他

(事務局) 経営戦略(案)の審議は、次回 2 月 15 日が最後となりますので、意見・質問がありましたら、FAX 等で提出願いたい。次回の審議会で回答をお示ししたい。また、2 月 15 日の審議会においてご意見等があった場合、その場で対応できるものについては当日対応等しますが、対応できない場合は事務局に一任をいただき、必要に応じて書面等でお示しするというところでよろしいでしょうか。

全委員了承

(事務局) 次回の審議会の開催日程について、2 月 15 日(水)午後 2 時から南部終末処理場 2 階会議室において開催。

#### 5 閉会